

学術フォーラム

「性差研究に基づく科学技術・イノベーション」

「ジェンダー統計の必要性」

2022年9月8日（木）13:00～16:30

日本学術会議講義堂+オンライン



河野 銀子 (Kawano Ginko)

(日本学術会議連携会員、山形大学学術研究院教授)

報告者の立場 と 本日の報告

報告者の立場

- 教育社会学・ジェンダーと教育/科学技術（統計学やジェンダー統計の専門家ではない）
- 初中等教育や大学の教員、研究者などのキャリア形成をジェンダー視点で分析（インタビュー調査やアンケート調査等と合わせて政府統計を利用）
 - e.g. 理系進路選択のジェンダー分析：高校での文理選択/大学での専攻分野/周囲の反応/成績・教科選好度、、、
女性学長はなぜ少ないか：男女大学教員のキャリアパス（職位ごとの男女比/勤続年数/前職、、、）
- データがない問題に直面（調査自体がない、調査項目がない、etc.）
- あっても使いづらい問題（公表されていない、二次利用申請、全体と男性の数値のみ、etc.）
- 教育・研究に関する現状が把握できる一貫したジェンダー統計が必要では（USA、EU）

報告者の立場 と 本日の報告

1. 統計におけるジェンダーの扱い

- 1-1 国際的な動向
- 1-2 日本政府の動き
- 1-3 内閣府男女共同参画局の取組み
- 1-4 政府統計/GIのためのデータ

2. 科学技術・学術研究における女性の参画状況

- 2-1 垂直方向と水平方向
- 2-2 米国のWMPD in S&E
- 2-3 EUのShe Figures
- 2-4 日本の大学：学生から教授まで

3. 教育分野のジェンダー統計

- 3-1 初中等教育段階のジェンダー統計
- 3-2 GGGI「教育分野1位？」

4. 教育・研究分野のジェンダー平等に向けて

- 4-1 ジェンダー統計の現状と課題
- 4-2 知識におけるジェンダー主流化

1-1 国際的な動向

第4回世界女性会議 北京行動綱領（1995）：第4章 戦略目標及び行動

H 女性の地位向上のための制度的な仕組み

207.政府により：

- (a) 女性及び男性に関する項目別のデータを広範な非専門的な利用者に適した形で提供し説明する、ジェンダーに関する統計出版物の定期的な作成を確保すること。
- (b) 各国の統計作成者及び利用者が公的統計制度の妥当性及びジェンダー問題の適用度を定期的に見直し、必要な場合は、必要な改善に関する計画を準備するよう保障すること。
- (c) 公共・民間両部門における上級的意思決定のポストにある女性及び男性の数を含め、社会における権力及び影響力の分担に関して、調査機関、労働組合、使用者、民間部門及び非政府機関による数量的・質的な調査を開発し、また、開発を奨励すること。
- (d) 政策の策定並びにプログラム及びプロジェクトの実施に当たって、ジェンダーにより配慮したデータを利用すること。

1-2 日本政府の動き

- 「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（2016）において、「ジェンダー平等の実現及びジェンダーの視点の主流化のためには、ジェンダー統計の充実が極めて重要」で、「可能な限り男女別データを把握するよう努める」との方向性

(※<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/dai2/siryou1.pdf>)

- 第3期統計基本計画（2018年3月6日閣議決定）では国際連合統計部の動向を踏まえて「男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計（ジェンダー統計）」の作成・提供を推進

(※https://www.soumu.go.jp/main_content/000690298.pdf)

- 第5次男女共同参画基本計画（2020年12月25日閣議決定）においては、「男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計（ジェンダー統計）」の充実の観点から、各種統計の整備状況を調査」すること、および、「ジェンダー統計における多様な性への配慮」について、現状を把握し、課題を検討

(※https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/5th/pdf/print.pdf)

1-3 内閣府男女共同参画局の取組み

ジェンダー統計ニーズ調査

内閣府ホーム > 内閣府男女共同参画局ホーム > 基本データ > その他 > ジェンダー統計ニーズ調査

ジェンダー統計ニーズ調査

実施期間: 令和4年3月1日(火) 12:00
～3月14日(月) 23:59まで



**ジェンダー統計に関するニーズ調査
にご協力ください!**



男女共同参画をさらに推し進めるには、
男女の置かれている状況を客観的に把握し、
データに基づいた施策を行うことが重要です。

ジェンダー統計の観点からの性別欄検討WG

内閣府ホーム > 内閣府男女共同参画局ホーム > 推進本部・会議室 > 審議委員会 > 性別欄検討ワーキング・グループ

ジェンダー統計の観点からの性別欄検討ワーキング・グループ

- ▶ ジェンダー統計の性別欄検討ワーキング・グループの開催について [PDF形式:75KB]
- ▶ 構成員名簿 [PDF形式:58KB]

回	開催年月日	議事次第 配布資料	議事録
第7回	令和4年8月29日	議事次第・配布資料 (1) ジェンダー統計の観点からの性別欄の取扱い(更新)について (2) 議論の取りまとめについて	掲載
第6回	令和4年8月1日	議事次第・配布資料 (1) ジェンダー統計の観点からの性別欄の取扱い(更新)について (2) 議論の取りまとめの方向性について	掲載
第5回	令和4年7月21日	議事次第・配布資料 (1) ジェンダー統計の観点からの性別欄の取扱い(更新)について (2) 議論の取りまとめの方向性について	掲載 [PDF形式: 300KB]
第4回	令和4年7月15日	議事次第・配布資料 (1) ジェンダー統計の観点からの性別欄の取扱い(更新)について (2) 構成員ヒアリング	掲載 [PDF形式: 340KB]
		議事次第・配布資料 (1) ジェンダー統計の観点からの性別欄の取扱い(更新)に	掲載

ジェンダー統計に関するニーズ調査（内閣府男女共同参画局）

- 政府統計のデータに関するニーズ：2022年3月1～14日（オンライン）
- 各種統計調査を使って調査分析を行う研究者、大学教員、その下で分析を行う学生等 2,724人
- 44.2%が、男女別にすべき/男女別状況を把握するために改善すべき政府統計は「ある」と回答。
 - よくわからない・何とも言えない（47.6%）、特にないと思う（8.2%）
- 男女別状況把握のため改善すべき政府統計
 - ◆分野別：①労働・賃金（83.5）、②教育・文化・スポーツ・生活（75.0）、③人口・世帯（66.0）、④社会保障・衛生（65.7）、⑤企業・家計経済（58.6）
 - ◆自由記述：①学校基本調査33、②学校教員統計調査32、③科学技術研究調査26、③民間給与実態統計調査26、⑤賃金構造基本統計調査25、⑤労働力調査25（回答総数468）

1-4 政府統計/GIのためのデータ

■ 政府統計におけるジェンダー統計は「男女の置かれている状況を客観的に把握する」上で重要と認識されている。

■ ジェンダー統計にかかる具体的な整備は途上（二項以外の性別を含む）。

■ e-Stat(政府統計ポータルサイト)

■ Winet(NWEC : 女性情報ポータル)

(<https://winet.nwec.go.jp/toukei/>)



■ GIにおいては、公的統計に限らず、ジェンダー視点に立脚

したデータの収集・加工（集計や分析等）が必要。

■ 実験動物の性別等を含む性差に基づく医科学データの蓄積、ケアや発明、研究開発にかかわる人々の性別に関するデータを収集し蓄積する仕組みが不可欠。

Winet 女性情報ポータル ウィネット

女性と男性に関する統計データベース

データベースについて

女性と男性に関する統計データベースは、日本の女性と男性の生活の全分野にわたる重要な統計を、特に女性と男性ごとを把握した統計データベースです。

データベースの内容は下記の11の分野に分かれており、主に政府統計から、計426表を提供しています。更新は元となる調査結果の公表によります。

1. 人口33表
2. 世帯・家族61表
3. 労働76表
4. 生活時間・無償労働29表
5. 学計・資産29表
6. 教育・学習26表
7. 社会保険・福祉55表
8. 健康・保健29表
9. 安全・犯罪26表
10. 意思決定37表
11. 意識調査25表

e-Stat 統計で見る日本

政府統計の総合窓口

統計データを探す | 統計データの活用 | 統計データの関連情報 | 統計調査情報 | リンク集

分野から探す

統計データは17の分野から探します。

※全画面には「統計統計」を表示しています。

国土・気象 主な調査 > 気象調査 > 人口調査 > 人口動態調査 > 労働力 > 国民生活意識調査 > すべて見る (2 調査)	人口・世帯 主な調査 > 世帯調査 > 労働力調査 > 国民生活意識調査 > 労働力調査 > 国民生活意識調査 > すべて見る (21 調査)	労働・賃金 主な調査 > 労働力調査 > 労働時間調査 > 賃金調査 > 労働力調査 > 賃金調査 > 労働力調査 > 賃金調査 > すべて見る (74 調査)	農林水産業 主な調査 > 農林水産業調査 > 漁業調査 > 畜産調査 > 林業調査 > 水産調査 > すべて見る (73 調査)
鉱工業 主な調査 > 鉱工業調査 > 製造業調査 > 建設業調査 > 鉱工業調査 > 製造業調査 > 建設業調査 > すべて見る (38 調査)	商業・サービス業 主な調査 > 商業調査 > サービス業調査 > 商業調査 > サービス業調査 > 商業調査 > サービス業調査 > すべて見る (27 調査)	企業・家計・経済 主な調査 > 企業調査 > 家計調査 > 経済調査 > 企業調査 > 家計調査 > 経済調査 > すべて見る (85 調査)	住宅・土地・建設 主な調査 > 住宅調査 > 土地調査 > 建設調査 > 住宅調査 > 土地調査 > 建設調査 > すべて見る (40 調査)
エネルギー・水 主な調査 > エネルギー調査 > 水調査 > エネルギー調査 > 水調査 > エネルギー調査 > 水調査 > すべて見る (15 調査)	運輸・観光 主な調査 > 運輸調査 > 観光調査 > 運輸調査 > 観光調査 > 運輸調査 > 観光調査 > すべて見る (36 調査)	情報通信・科学技術 主な調査 > 情報通信調査 > 科学技術調査 > 情報通信調査 > 科学技術調査 > 情報通信調査 > 科学技術調査 > すべて見る (20 調査)	教育・文化・スポーツ・生活 主な調査 > 教育調査 > 文化調査 > スポーツ調査 > 生活調査 > 教育調査 > 文化調査 > スポーツ調査 > 生活調査 > すべて見る (27 調査)

政府統計の総合窓口 <https://www.e-stat.go.jp/statistics-by-theme/>

2. 科学技術・学術研究における女性の参画状況

2-1 垂直方向と水平方向

- 垂直方向 (Vertical segregation)

職位や意思決定層における性別分離

— 教諭・主任・教頭/副校長・校長

— 助教・講師・准教授・教授・学部(科)長・副学長・学長

- 水平方向 (Horizontal segregation)

職域や分野における性別分離

— 担当学年・担当教科

— 専門分野

「性別」「職位」「分野」が

わかるデータが必要

「学校基本統計」(文科省)

「学校教員統計」(文科省)

「科学技術研究統計」(総務省)

※いずれも基幹統計

基幹統計＝国勢統計、国民経済計算その他の行政機関が作成する統計のうち総務大臣が指定する特に重要な統計：2022.1.1時点で53統計
(https://www.soumu.go.jp/main_content/000472737.pdf)

WOMEN, MINORITIES, AND PERSONS WITH DISABILITIES IN SCIENCE AND ENGINEERING

NATIONAL CENTER FOR SCIENCE AND ENGINEERING STATISTICS (NCSES)
DIRECTORATE FOR SOCIAL, BEHAVIORAL AND ECONOMIC SCIENCES
NATIONAL SCIENCE FOUNDATION

※National Science Foundation reporting on this topic is mandated by the Science and Engineering Equal Opportunities Act (Public Law 96-516).

2021 Women, Minorities, and Persons with Disabilities in Science and Engineering



National Center for Science and Engineering Statistics
Directorate for Social, Behavioral and Economic Sciences
National Science Foundation



NCSES

Table of Contents

Executive summary

Introduction

Enrollment

Field of degree: Women

Field of degree: Minorities

Field of degree: Intersectionality

Employment

Occupation

Academic careers

Persons with disability

Appendix

- 法に基づき、NSF（米国国立科学財団）がデータを収集・加工・公表（1982年～隔年）

※データ→<https://nces.nsf.gov/pubs/nsf21321/data-tables>

- S&E（下記参照）の入学状況、取得学位、雇用

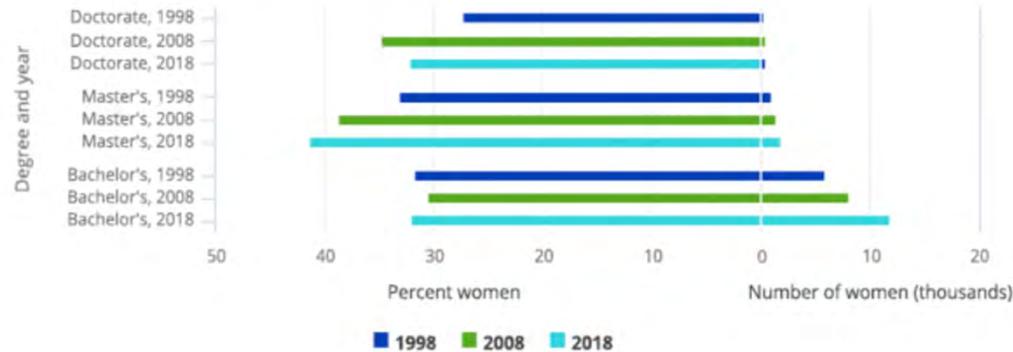
- 女性、マイノリティ（人種・民族等の7類型）、障がいのある人の分野別の在学状況（大学タイプ別・大学院）、学位取得状況（分野別）、雇用（地位・給料・技術職等）

※S&E: astronomy; chemistry; physics; atmospheric sciences; earth, moon, planetary and ocean sciences; mathematics and statistics; biological sciences; agricultural sciences; biological sciences; psychology; social sciences; and engineering. (doctorate level;+the medical and health sciences).
● 交差性：女性でマイノリティ、障がい者
Higher Education in Science and Engineering
(<https://nces.nsf.gov/pubs/nsb20223/glossary>)

出所) <https://nces.nsf.gov/pubs/nsf21321/>

Figure 9

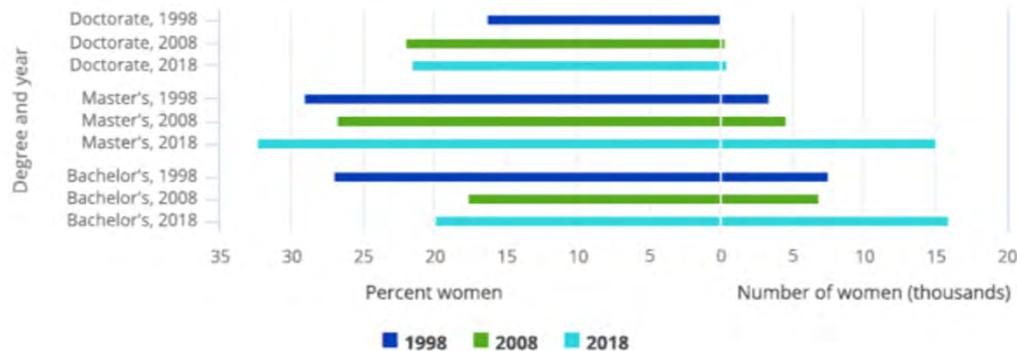
Degrees awarded to women: Economics, 1998, 2008, 2018



Source(s): Department of Education, National Center for Education Statistics, Integrated Postsecondary Education Data System, Completions Survey, unrevised provisional release data, accessed 14 January 2020. Related detailed data: WMPD table 5-2, table 6-1, and table 7-1.

Figure 10

Degrees awarded to women: Computer sciences, 1998, 2008, 2018



Source(s): Department of Education, National Center for Education Statistics, Integrated Postsecondary Education Data System, Completions Survey, unrevised provisional release data, accessed 14 January 2020. Related detailed data: WMPD table 5-2, table 6-1, and table 7-1.

●分野別・学位毎の女性学生数と女性学生比率の10年ごとの変化

—Economics

2018年にはB,M,Dで30%超
Master'sの女性比率が比較的高い

—Computer sciences

2018年にはB,M,Dで20%超
Master'sの女性比率が比較的高い

Computer sciences??

Table 9-11

Scientists and engineers employed part time, by sex, ethnicity, race, disability status, preference for full-time employment, and reason for working part time: 2019

(Number)

Sex, ethnicity, race, and disability status	All part time	Preference for full-time status		Reason for part-time status						
		Did not want full time	Wanted full time	Did not need or want to work full time	Family responsibilities	Full-time job not available	Hold another job	Retired ^a	Student	Other
All groups	4,666,000	3,640,000	1,026,000	2,364,000	1,739,000	1,067,000	575,000	1,027,000	573,000	529,000
Female	3,047,000	2,455,000	592,000	1,579,000	1,400,000	718,000	392,000	470,000	391,000	298,000
Male	1,618,000	1,185,000	434,000	785,000	339,000	349,000	183,000	557,000	182,000	232,000
Hispanic or Latino ^b	470,000	272,000	198,000	132,000	204,000	165,000	57,000	58,000	96,000	86,000
Not Hispanic or Latino										
American Indian or Alaska Native	14,000	S	D	S	S	S	S	1,000	S	D
Asian	574,000	348,000	225,000	171,000	207,000	134,000	51,000	48,000	133,000	108,000
Black or African American	280,000	186,000	93,000	96,000	77,000	69,000	43,000	54,000	56,000	47,000
Native Hawaiian or Other Pacific Islander	3,000	2,000	1,000	S	S	S	D	D	S	S
White	3,225,000	2,740,000	485,000	1,904,000	1,217,000	664,000	389,000	857,000	264,000	279,000
More than one race	100,000	78,000	21,000	51,000	21,000	30,000	33,000	8,000	21,000	7,000
Without disability	4,060,000	3,167,000	893,000	2,083,000	1,556,000	906,000	504,000	810,000	529,000	408,000
With disability	606,000	473,000	133,000	280,000	183,000	161,000	71,000	217,000	44,000	122,000

D = suppressed for data confidentiality reasons. S = suppressed for reliability; coefficient of variation exceeds publication standards.

^a Includes persons working part time who reported they had retired from a previous job.^b Hispanic or Latino may be any race; race categories exclude Hispanic origin.

Note(s):

Numbers are rounded to nearest 1,000. Detail may not add to total because of rounding and suppression and because respondents could select more than one reason. The National Survey of College Graduates asks the degree of difficulty—none, slight, moderate, severe, or unable to do—an individual has in seeing (with glasses), hearing (with hearing aid), walking without assistance, lifting 10 pounds, or concentrating, remembering, or making decisions. Respondents who answered "moderate," "severe," or "unable to do" for any activity were classified as having a disability. Scientists and engineers are individuals under the age of 76 who have a bachelor's or higher degree, are living in the United States, and have an or S&E-related degree or occupation. 12

Data Tables

<https://nces.nsf.gov/pubs/nsf21321/data-tables/#group6>

S&Eでのパートタイム雇用状況（理由含む）が性別・エスニシティ・人種、障がいの有無ごとに表示。

データの出所
(オリジナル調査)

Source(s):
National Center for Science and Engineering Statistics, National Survey of College Graduates, 2019.

2-3 EUのShe Figures

SHE FIGURES 2021 GENDER IN RESEARCH AND INNOVATION: STATISTICS AND INDICATORS

EUROPEAN COMMISSION, DIRECTORATE-GENERAL FOR RESEARCH AND INNOVATION



TABLE OF CONTENTS

CHAPTER 1	INTRODUCTION
CHAPTER 2	THE POOL OF GRADUATE TALENT
CHAPTER 3	PARTICIPATION IN SCIENCE AND TECHNOLOGY OCCUPATIONS
CHAPTER 4	LABOUR MARKET PARTICIPATION OF RESEARCHERS
CHAPTER 5	WORKING CONDITIONS OF RESEARCHERS
CHAPTER 6	CAREER ADVANCEMENT AND PARTICIPATION IN DECISION-MAKING
CHAPTER 7	RESEARCH AND INNOVATION OUTPUT
APPENDIX 1	CORRESPONDENCE TABLE BETWEEN DIFFERENT EDITIONS OF THE SHE FIGURES
APPENDIX 2	METHODOLOGICAL NOTES
APPENDIX 3	LIST OF STATISTICAL CORRESPONDENTS
REFERENCES

- 2003年以降、3年毎にEU加盟国のデータを取り纏めて公表

- 学生、研究者の分野や職位、研究費の獲得状況、博士課程の学生の移動や雇用形態、男女間の賃金格差等

- 数値に語らせるためのグラフ化＝ハサミの図

(参：小川真里子2021「EUにおけるSTEM分野のジェンダー平等」、河野・小川編『女性研究者支援政策の国際比較』(明石書店))

出所) <https://data.europa.eu/doi/10.2777/06090>

SHE FIGURES, P181-182.

学生～教授までの各段階の女性と男性の比率（全体、S&E）

Figure 6.1 Proportion (%) of men and women in a typical academic career, students and academic staff, EU-27 & EU-28, 2015-2018

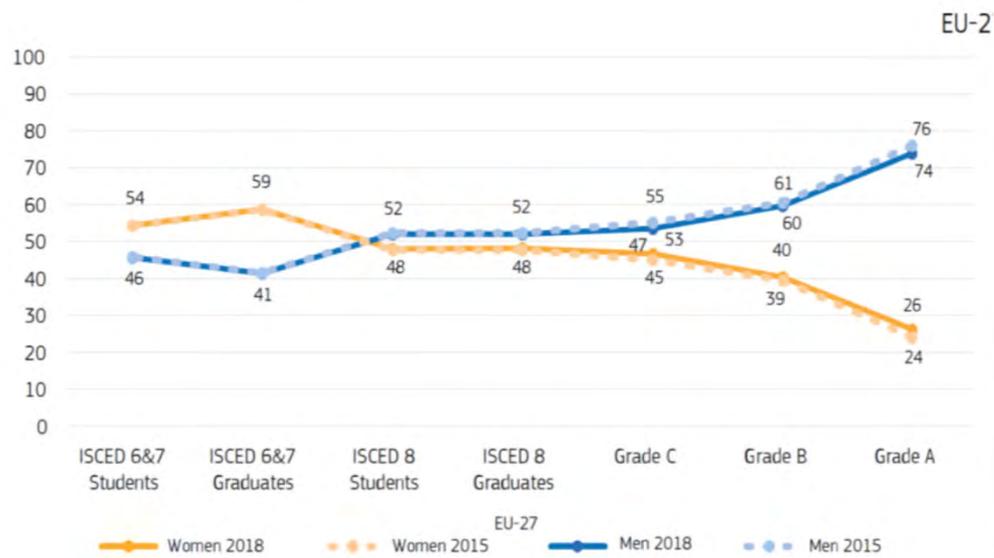
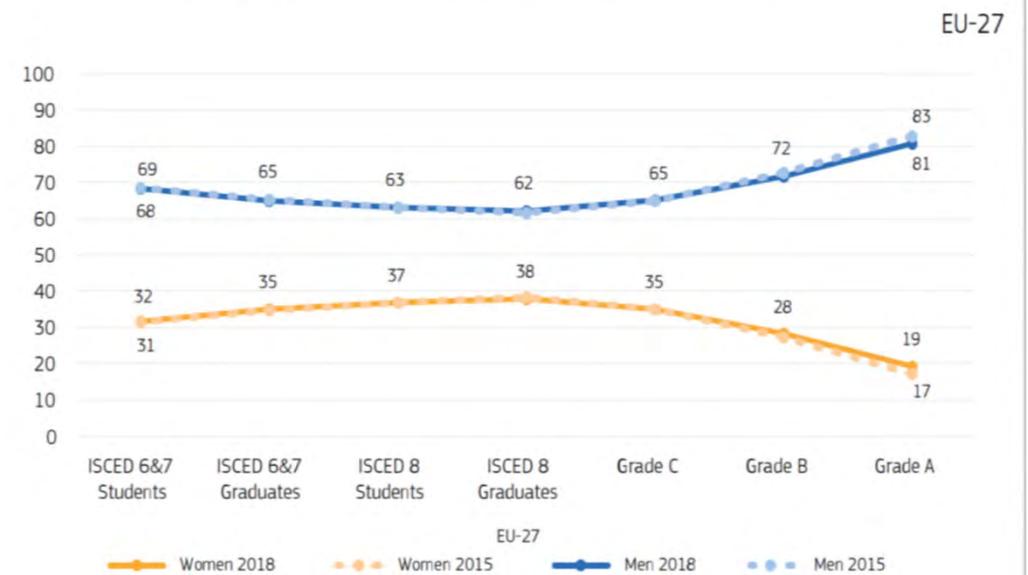


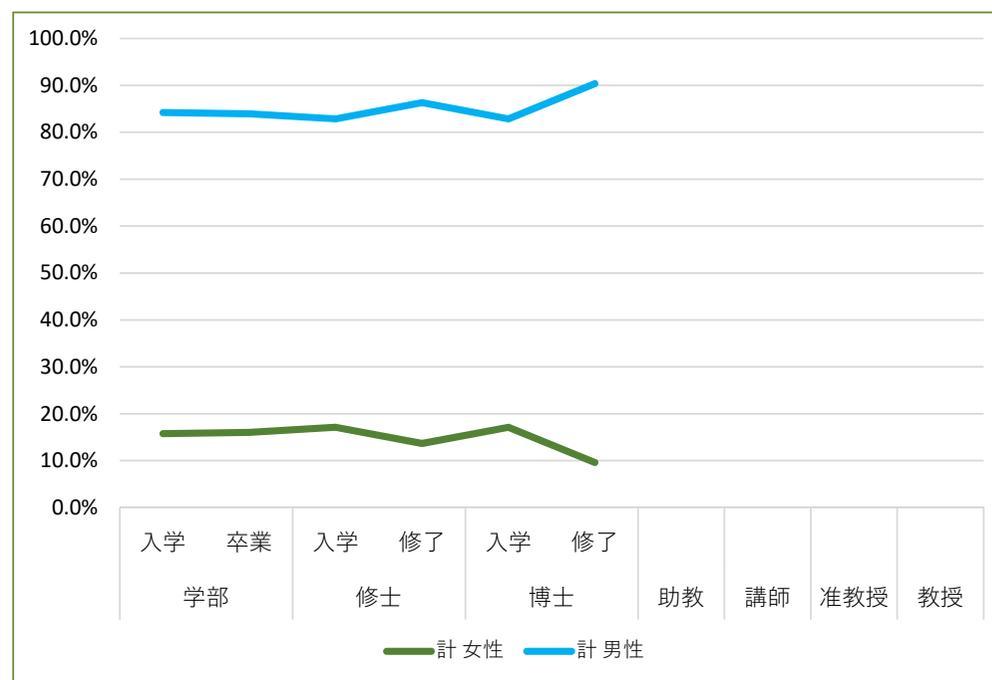
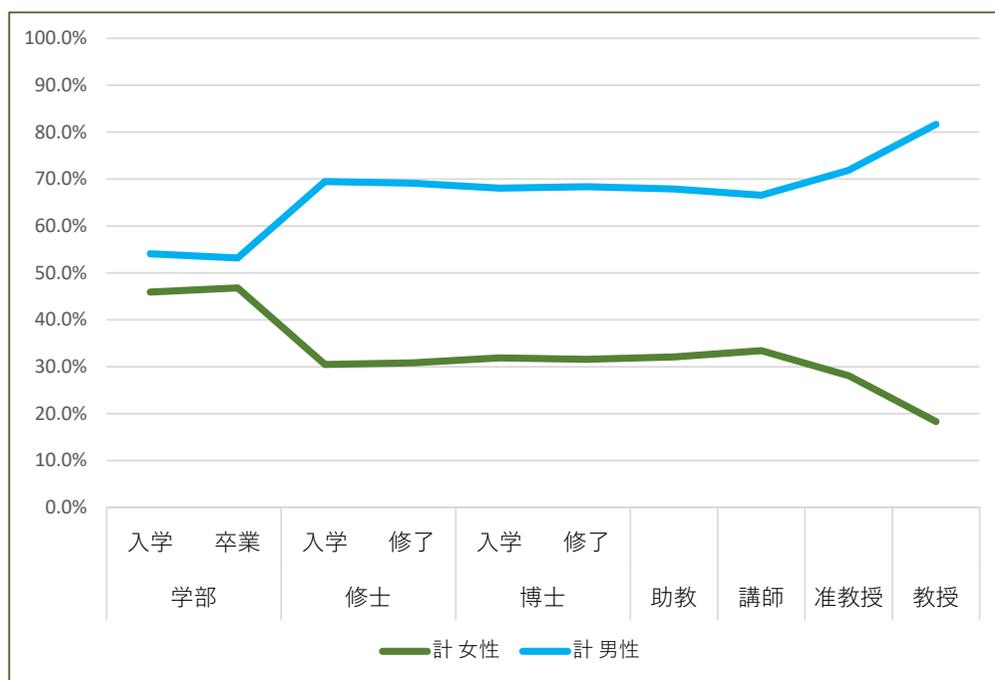
Figure 6.2 Proportion (%) of men and women in a typical academic career in science and engineering, students and academic staff, EU-27 & EU-28, 2015-2018



注) ISCED 6 = 学士、7 = 修士、8 = 博士、Grade C = 助教・講師相当、B = 准教授相当、A = 教授相当

2-4 日本の大学：学生から教授まで

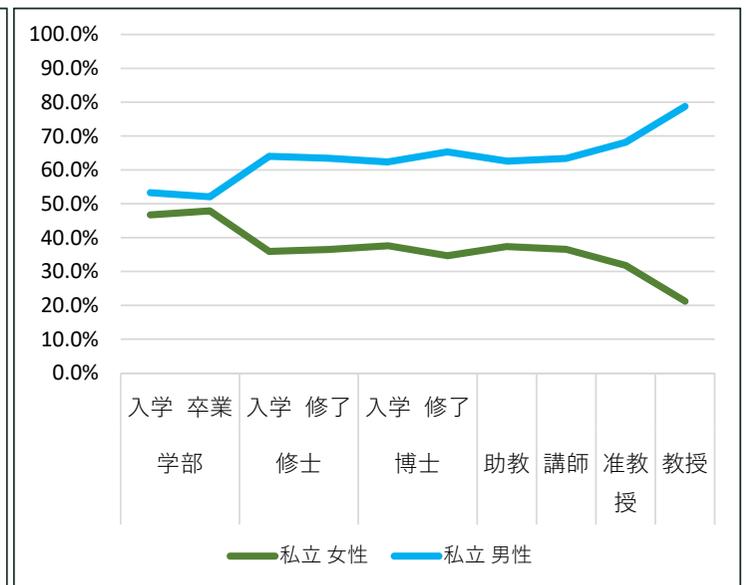
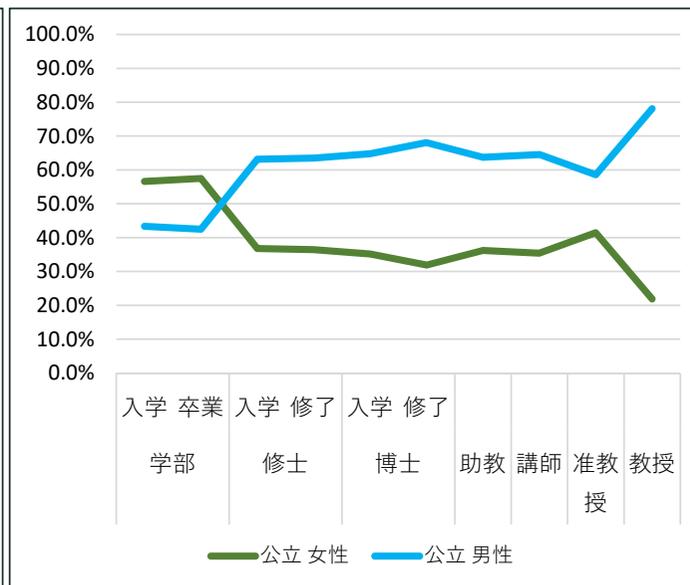
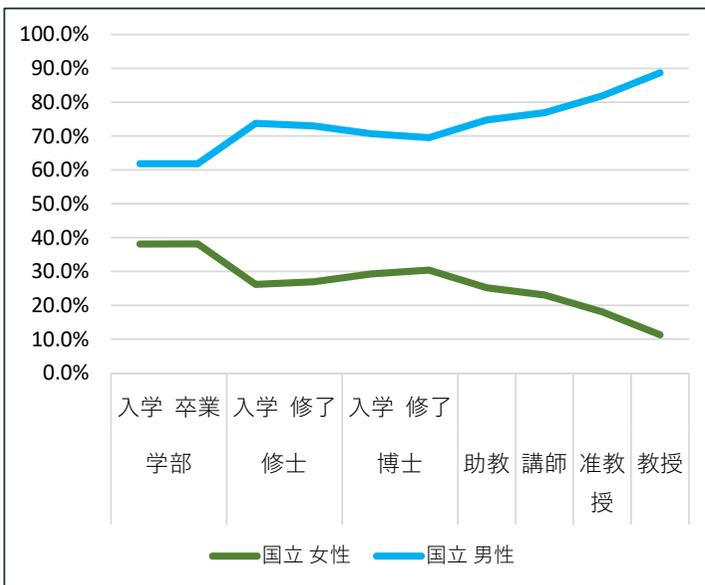
※SHE FIGURES に倣って作成(ただし、ISCED6,7を分け、教員を4段階に。全体と工学。)



出所)学校基本調査(文科省,2021)(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>)より、「関係学科別大学入学状況」「関係学科別入学年度別卒業生数」「専攻分野別大学院入学状況」「修士課程の状況別卒業生数」「博士課程の状況別卒業生数」「職名別教員数」を用いて河野作成。

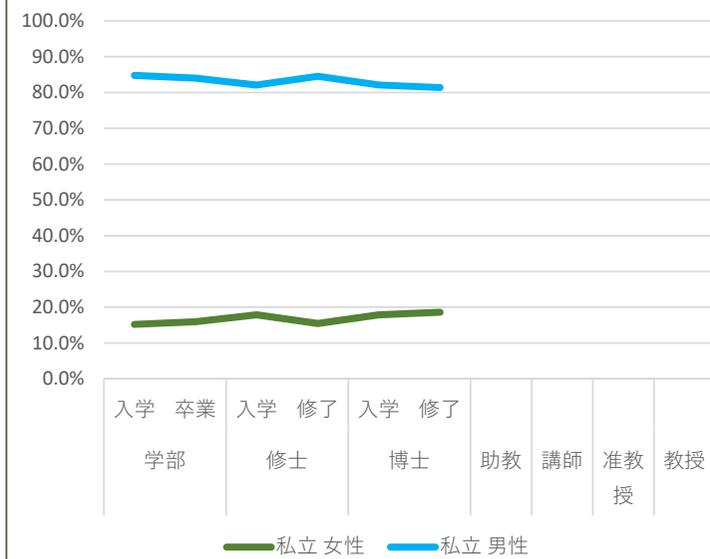
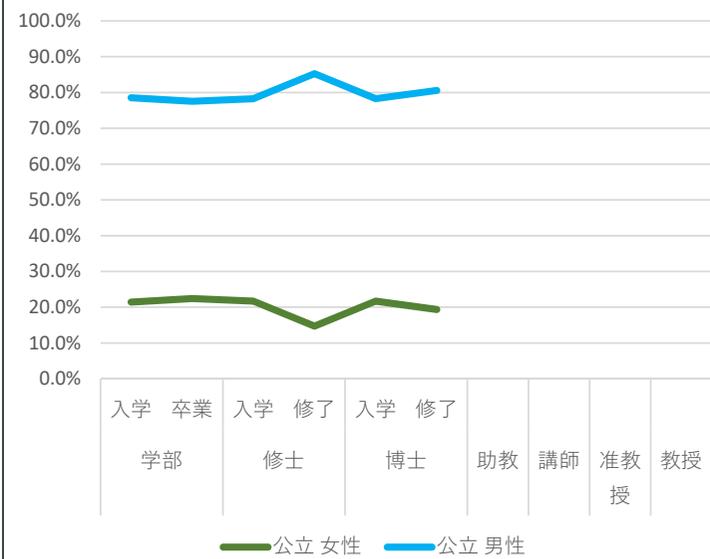
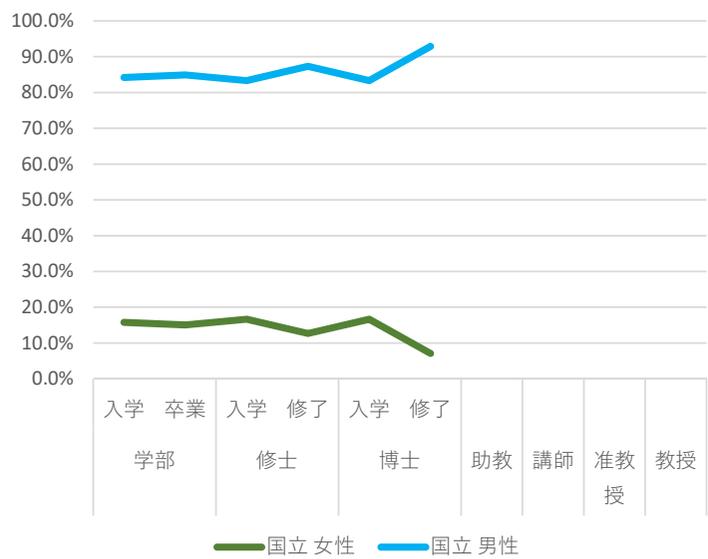
学校基本調査：職名と「所属別(学部/教養部/附属病院, etc.)」「学部別」は有。分野？
 学校教員統計調査：職名と年齢、分野、自校出身、担当授業時数、給料月額は有。性別？
 科学技術研究調査：分野や所属機関は有。職位？

全体：設置者別（国立/公立/私立）



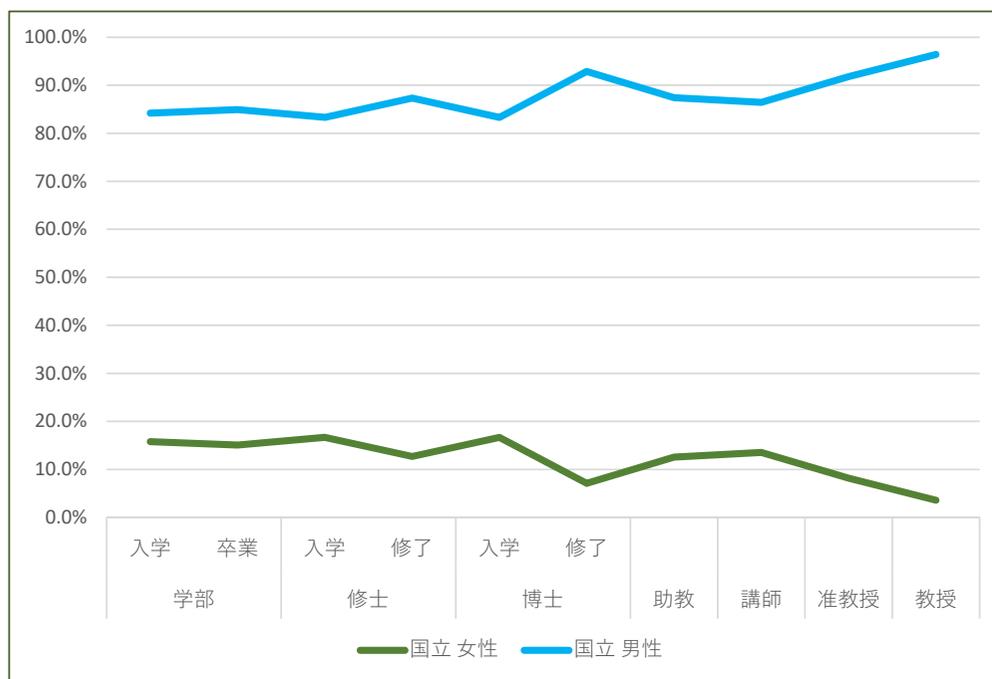
国立でギャップが大きく、私立ではやや小さく、公立ではハサミに類似。
いずれも教授層でのギャップが最大で、国立・私立は職位が上がれば女性比率が下がる。

工学分野：設置者別（国立/公立/私立）



大学教員の「性別」「職位」「分野」のデータがそろわない。
水平方向のジェンダー・セグレーションが捉えられない。

国立大学協会：教育・研究委員会 男女共同参画小委員会



- 部局別性別構成だけでなく専攻分野を尋ねている。
- 分野は「学科系統分類表」に基づく10分類。
(人/社/理/工/農/保/家/教/芸/他。ただし商船は「その他」)
- グラフは工学のデータ。
- 国立大のシェアは大学院生は60%程度であるが、学部生は約15%、教員は約34%。
- 公立・私立の学生や教員の分野別の実態がとらえられない。

出所) 学生データ「学校基本調査」(前掲)、教員データ「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第18回追跡調査報告書」(国立大学協会、2022) (https://www.ianu.jp/wp/wp-content/uploads/2022/02/202201houkoku_01.pdf) より取得して河野作成。

学協会による自主的な活動による研究者の実態把握

(国公立大学、非営利団体、企業等の研究者を含む)

■ 男女共同参画学協会連絡会(2002-)

(The Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering :EPMEWSE)

(正式加盟54学協会、オブザーバー加盟66学協会)

<https://djrenrakukai.org/index.html>

●大規模アンケート

●活動調査(委員会等有無、シンポ回数等、保育所利用)

●女性比率調査(会員や会長・副会長、編集委等の女性比率)

(詳細は → <https://djrenrakukai.org/enquete.html#ratio>)

■ 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(2017-)

(Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences :GEAHSS)

(加盟69団体、オブザーバー2団体)

<https://geahssoffice.wixsite.com/geahss>

●GPの共有

●実態調査

→ 『人文社会科学とジェンダー』(学術会議叢書29、2022)

●異分野間対話(<https://geahssoffice.wixsite.com/geahss/blank-4>)

3. 教育分野のジェンダー統計

3-1 初中等教育段階のジェンダー統計

■ 担当教科ごとの教員の性別構成

「学校教員統計調査」(文科省)

担任している教科を複数回答した結果が、男女別に%で表示(実数なし: 初中等教員の教員個人調査は標本調査)。

各性別の教員の担当教科の状況はわかるが、各教科を教えている教員の性別構成が把握できない。

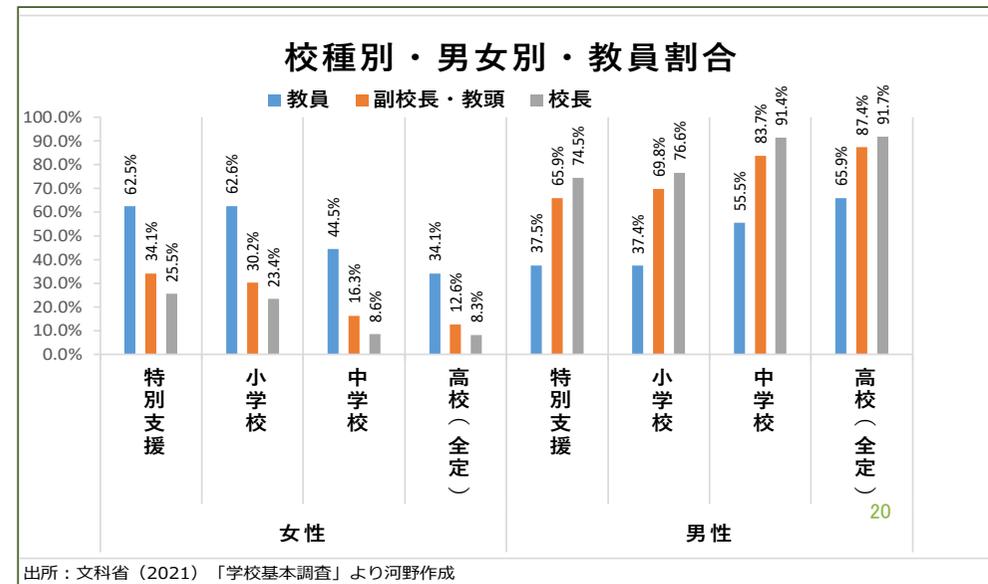
(※女子児童生徒の理数系学習に対する教員の性別の影響が分析できない)

※仮に全員を本務教員として算出すると女性比率は

中学校: 数学教員の25%、理科教員の27%

高校: 数学教員の15%、理科教員の20%

参考) 垂直方向を捉えるデータは有
一学校段階や職位が上がれば女性比率が下がる



3. 教育分野のジェンダー統計

3-1 初中等教育段階のジェンダー統計

- 国内の学力テスト等にかかる性別毎の結果
「全国学力・学習状況調査」(文科省:2007年度から毎年)
- 2022.4. 19.実施
(国語、算数数学、理科:小6・中3、悉皆調査)
- 結果は国立教育政策研究所がHP等で公表、授業アイデア例なども紹介

都道府県別の結果等が公表されるものの、性別ごとの結果は公表されておらず、学習状況の性差を適切に把握することが困難な状況。(※PISAなどの国際調査では公表:日本の子どもは男女の学力差より情意の差が大)

令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料

- 1.令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について
- 2.令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書
小学校(国語/算数/理科)中学校(国語/数学/理科)質問紙調査
- 3.令和4年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果資料
- 4.令和4年度 全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果資料
- 5.令和4年度 全国学力・学習状況調査【都道府県別】および【指定都市別】調査結果資料

出所)<https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/index.html>

過去の結果→<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

3-2 GGGI「教育分野1位？」

グローバル・ジェンダー・ギャップ指数（世界経済フォーラム）

グローバル・ジェンダーギャップ指数（世界経済フォーラム）における日本の位置＝116位（146ヶ国中）

■ GGGI2022

- **政治分野**（0.06/139位）
- **経済分野**（0.564/121位）
- **保健分野**（0.973/63位）
- **教育分野**（1.0/1位：21ヶ国が1位）

参）世界銀行（法規制が女性の経済参加に与える影響）

- WBL Index (World Business and the Law. 2022)
- 190ヶ国中の103位（2021年80位から急落）

■ 日本のジェンダー不平等は、**政治・経済分野に起因**

■ **教育分野は問題ない？**

- これまで、教育分野のGGGIも1.0に達したことはない（0.983～0.994/60位台～90位台）。
- tertiary education(第三段階教育)のジェンダーギャップが足を引っ張っていた。

GGGI=1.0、1位の中からくり

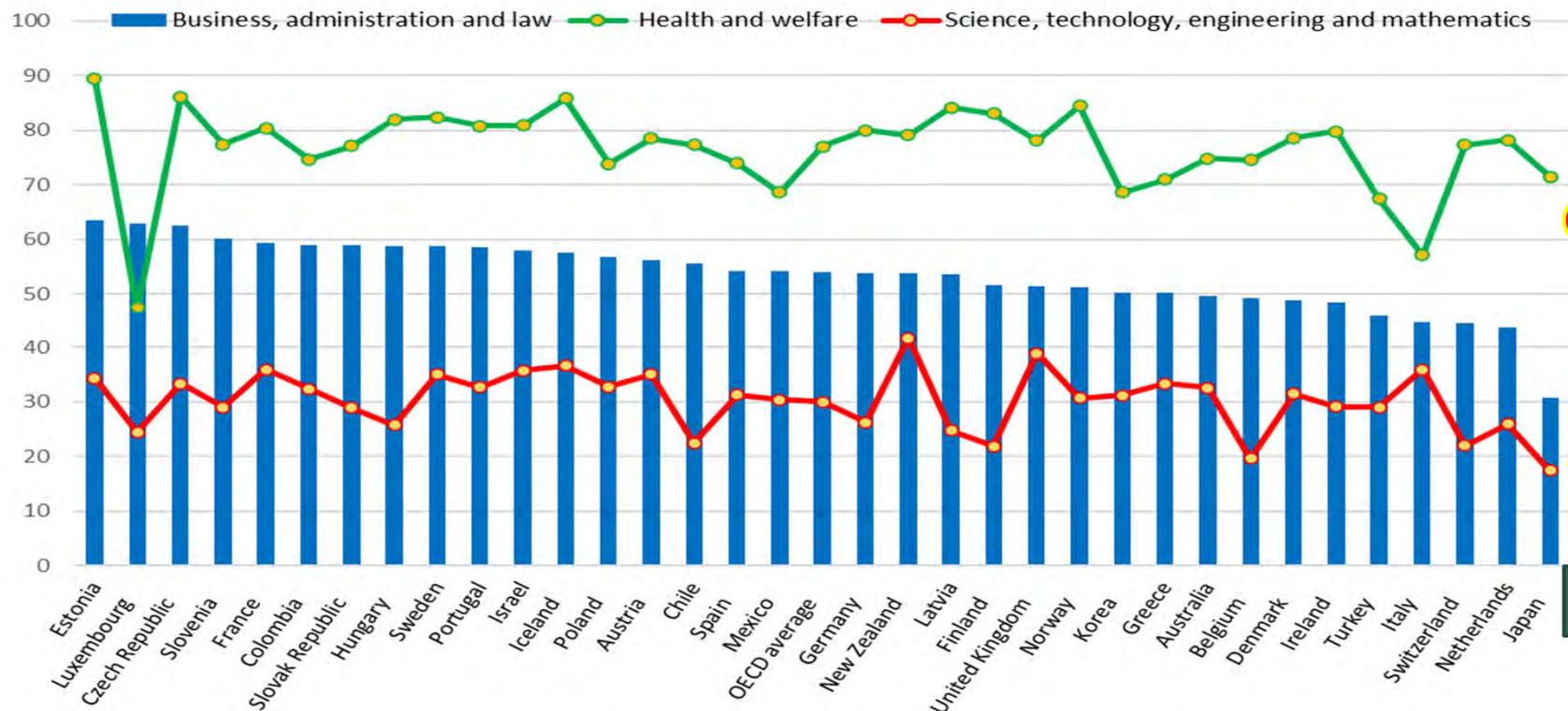
Educational Attainment		1st	1.000		-	-	-
Literacy rate %	1st	1.000			-	-	-
Enrolment in primary education %	1st	1.000		0.25		97.67 ◆ 97.92	0-100
Enrolment in secondary education %	1st	1.000		0.46		101.73 ◆ 102.19	0-200
Enrolment in tertiary education %	-	-		-		-	-

出所：World Economic Forum, Global Gender Gap Report 2022
(https://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2022.pdf)

- 毎回スコアが低い高等教育に関するデータがない。
 - ISCED 5、6、7、8のデータ（UNESCO）。
 - 専攻分野についても「STEM Graduates」などのデータがない。
 - 高等教育進学や専攻分野の現状が把握できないと初中等教育段階の諸問題がわからない。

STEM分野の女性比率も低いがビジネス・行政・法学も低い

主な専攻分野の学生に占める女性割合 (OECD, 2017)



STEM分野の女性割合も低い

日本

Source: Education at a Glance 2019: OECD Indicators. データのない国を除いて河野作成.
 (https://www.oecd-ilibrary.org/education/education-at-a-glance-2019_23f4fc19-en)

4. 教育・研究分野のジェンダー平等に向けて

4.1 ジェンダー統計の現状と課題

- 政府統計等において「ジェンダー統計」はジェンダー平等を推進するために必要と認識されており、改善の兆しが見えなくはない。
- 教育や研究にかかる基幹統計では、垂直方向の実態はかなり把握できるものの、水平方向の実態が捉えづらい（専門分野、担当教科、etc.）。
- 高等教育機関における「分野」は「学科系統分類表」の大分類が適用されているが、国際比較の際にはこのまま使えない。



- 性別の扱いや調査項目（特に水平方向の把握、国際比較のための分類）の検討
- ジェンダーに関する統計出版物の定期的な作成に向けた検討
- ジェンダー統計が整えば自然とジェンダー平等が達成するわけではない

4.2 知識におけるジェンダー主流化 大学カリキュラム（内容・教授法）へのジェンダー視点の導入

Gender Justice in Accreditation and Quality Management

Research Findings, Recommended Actions and Gender Curricula

In which way can the Bologna-Process play a vital part in increasing the gender justice of higher education institutions? How can findings of the Gender Studies be implemented into modularised study and teaching content, by accrediting two-cycle study programmes? Those were the two central initial questions that led to the study of the Women's & Gender Research Network NRW. A „more“ of gender equality in science and education is enabled by a „more“ of gender knowledge. You can find an english article about the findings of the Study by Beate Kortendiek in the book "From gender studies to gender IN studies: case studies on gender-inclusive curriculum in higher education" (pp. 211-228) [Article | Download](#)

Select

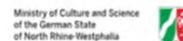
- All courses
- Humanities
- Sports
- Law, Economics and Social Sciences
- Mathematics, Natural Sciences
- Medicine and Health
- Agricultural, Forestry and Nutritional Studies
- Engineering
- Esthetics

anzeigen

This website is operated by



Supported by



Gender Curricula ●●●●●

Start **Gender Curricula** Literature Gender Experts Suche...

Gender Curricula **Mechanical Engineering**

Process Engineering, Production Technology, Automotive Technology, etc.

Course: Mechanical Engineering

Group of courses: Engineering

Content:

- [Course objectives](#)
- [Teaching content/subject-specific gender studies content](#)
- [Integration of gender studies content into the curriculum](#)
- [Degree Stage](#)

[PDF / printversion](#)

Literature

[Mechanical Engineering](#)

Curricula of related subjects

[Electrical Engineering and Information Engineering](#)
[Electrical Engineering and Information Engineering](#)

Provided by

[Dr. Ing. Kira Stein](#)
Deutscher Ingenieurinnenbund e.V.
[kira.stein\[at\]i-online.de](mailto:kira.stein[at]i-online.de)

26

More experts for the subject

<https://www.gender-curricula.com/en/gender-curricula-startseite>

<https://www.gender-curricula.com/en/curriculum/maschinenbau>

例) 海洋科学

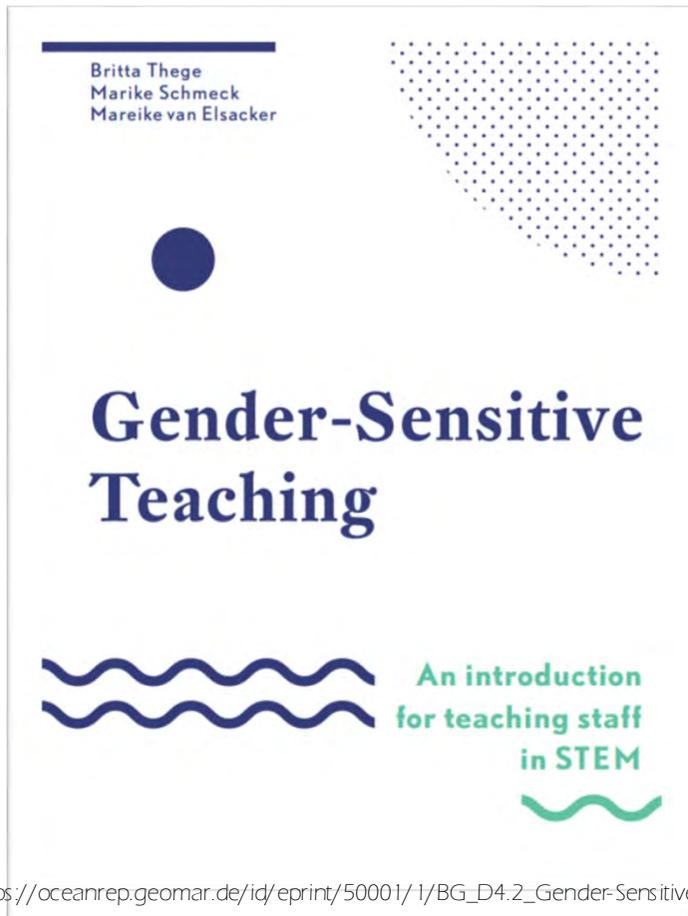


TABLE OF CONTENT

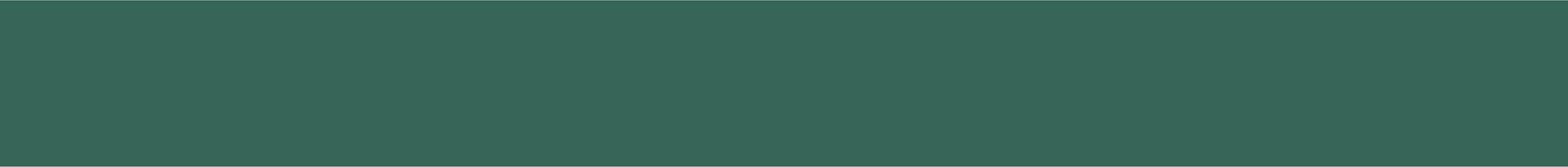
0.	Preface	4
	Introduction	6
1.	Why is gender important in teaching?	8
2.	Gender in curricula	12
	2.1 Gender bias in academic teaching	13
	2.2 Integrating gender in curricula	18
3.	Gender-sensitive teaching setups	28
	3.1 Gender- & diversity-responsive teaching and learning materials	30
	3.2 Participatory teaching	36
4.	Checklist from all "Take aways"	48
	Endnotes	50
	Sources	54

BALTIC GENDER CONSORTIUM

	Geomar Helmholtz Centre for Ocean Research Kiel, Germany
	Estonian Marine Institute, University of Tartu, Estonia
	Christian-Albrechts-University Kiel, Germany
	Kiel University of Applied Sciences, Germany
	Lund University, Sweden
	Klaipėda University, Lithuania
	Finnish Environment Institute, Finland
	The Leibniz Institute for Baltic Sea Research Warnemünde, Germany

This project has received funding from the European Union's Horizon 2020 research and innovation programme under grant agreement No. 710633



- 
- 
- ご清聴、ありがとうございました。

Kawano Ginko
(Yamagata Univ.)